

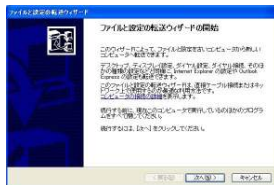
XPは  
まだまだ現役

## 購入時の速さを取り戻そう！

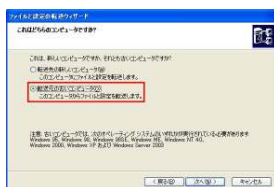
現在お使いのパソコンのOS、大多数の方はWindows7/Vista/XPのいずれかをご使用されているのではないのでしょうか？その中でもXPをまだ現役で使っている方は少なくないと思います。XPはWindowsの中で最も使われているOSとして、今もなお50%以上のシェアがあり、そのサポートもVistaより長い2014年4月までとなっています。2001年11月に発売されたXP、長い方では10年近くも使用しているのではないのでしょうか。そんな中で最初は快適に動いていたパソコンですが最近「鈍い」と感じることはありませんか？今回はXPをよみがえらせてみましょう！

### Windowsの標準ツールで、リカバリより手軽に高速化！

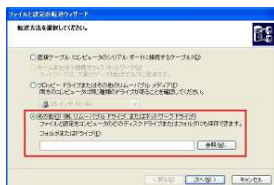
Windowsの高速化は、メモリの増設や不要ファイルの削除、視覚効果の設定変更などがあげられますが、今回は、現在のパソコンの中に、購入時同様の状態を作り出す方法をご紹介します。Windowsのシステムに異常はないけど動作が遅いという場合は、リカバリより手軽な方法があります。新アカウントへの移行です。これにはWindowsに標準である「ファイルと設定の転送ウィザード」を使用します。本来は古いパソコンから新しいパソコンへ環境を移行するために使用するものですが、同じパソコンでも利用できます。方法は、①新アカウントを作成する。②設定とデータを書き出す。③新アカウントで設定とデータを読み込む。この3ステップです。パソコンの性能やデータの容量にもよりますが、1～2時間程の作業時間です。まず最初に「コントロールパネル」→「ユーザーアカウント」で新しいアカウントを作成しておきましょう。アカウントの種類は「コンピュータの管理者」です。



①ウィザードの始まり。



②転送元の古いコンピュータを選択



③共有ドキュメントを指定



④ファイルと設定の両方を選択

ファイルと設定の転送ウィザードの操作手順は以下の通りです。最初は、古いアカウントで移行用データの書き出しからです。CDドライブの空き容量は十分確保しておいてください。

- ①アカウントを作成したら、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」とたどり「ファイルと設定の転送ウィザード」を起動します。
- ②「これはどちらのコンピュータですか？」の画面では「転送元の古いコンピュータ」を選択して「次へ」。
- ③「転送方法を選択してください。」の画面では、「その他」を選んで「共有ドキュメント」を指定します。後で新しいアカウントからでも読み込みができるからです。「参照」をクリック、「フォルダの参照」で「マイコンピュータ」→「共有ドキュメント」を選んで「OK」です。
- ④「何を転送しますか？」の画面では「ファイルと設定の両方」を選択します。後は、ウィザードに従い「次へ」を数回クリックすれば、ウィザードが完了します。
- ⑤共有ドキュメントのフォルダに、「USMT2.UNC」というファイルができ上がります。

次は新しいアカウントでの作業です。書き出した移行用データを読み込む作業です。

- ⑥まず古いアカウントからログオフして、新しいアカウントでログオンします。移行用データの書き出し作業同様に、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」とたどり「ファイルと設定の転送ウィザード」を起動します。「これはどちらのコンピュータですか？」の画面では「転送先の新しいコンピュータ」を選択して「次へ」。
- ⑦「WindowsXPのCDをお持ちですか？」の画面がでたら「・・・古いコンピュータからファイルと設定を収集しました」を選びます。
- ⑧「ファイルと設定はどこにありますか？」の画面では、先ほど書き出したUSMT2.UNCフォルダを指定します。後は自動的に読み込みが開始されます。

完了画面が表示されたら「完了」をクリック、画面に従い一旦ログオフして、新アカウントでログオンすると、壁紙やデスクトップが古いアカウントと同じようになっているはずですが、メールやお気に入り、マイドキュメントなど、必要なデータが移行されているか、確認してください。移行されないプログラムや、足りないファイルがあれば、「共有ドキュメント」や、USBメモリなどを経由して、古いアカウントから新しいアカウントへ移動することもできます。完全に移行完了が確認できるまで、古いアカウントは残しておきましょう。



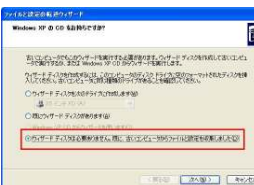
セキュリティの警告画面が表示されたら「ブロックを解除」します。



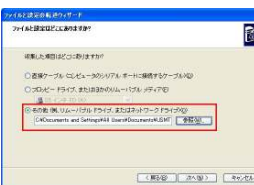
⑤これができれば書き出しは完了



⑥書き出しが完了したらログオフ



⑦ファイルと設定を収集しましたを選択



⑧書き出したUSMT2.UNCを指定

## 意外に効果がある7千高速化

リカバリやファイルと設定の転送ウィザードは、とても時間がかかります。短時間で高速化したい方は、以下の7千高速化をお試しください。

### ■起動を高速化！ WindowsUpdateの履歴削除

WindowsUpdateの適用履歴や実行ログファイルの肥大化が原因で、起動が遅くなっている場合があります。このファイルを削除するだけで起動時間短縮の効果が期待できます。作業手順はまず、Windowsの自動更新サービスを停止します。「マイコンピュータ」を右クリックして「管理」を選択。「コンピュータの管理」画面で「サービス」を選択して右側の一覧から「AutomaticUpdates」を右クリックして「停止」します。

次に、Windowsフォルダ内の「SoftwareDistribution」→「DataStore」フォルダの中の「LogsフォルダとDataStore.edb」を削除します。削除後は必ず「AutomaticUpdates」サービスを「開始」に戻してください。



### ■視覚効果を解除して、キビキビ感を出そう！

WindowsXPには、マウスポインタやメニューの下に影を付けたり、アニメーション表示があったり、視覚効果が標準になっています。必要のない視覚効果を解除することで、Windowsが軽快になることが期待できます。「マイコンピュータ」を右クリック→プロパティを選択して「システムのプロパティ」画面の「詳細設定」タブを開きます。パフォーマンス項目の「設定」ボタンをクリックして「視覚効果」タブを選択します。

「パフォーマンスを優先する」にチェックを付けると、全ての視覚効果が解除され、Windows98や2000のような表示に変わります。XPらしさを残すのであれば、「ウィンドウとボタンに視覚スタイルを使用する」にチェックを付けましょう。その他にも、文書作成にいろんなフォントを使用する方は、「スクリーンフォントの縁を滑らかにする」にチェックを付けておくと良いでしょう。デスクトップに壁紙を設定している方は、「デスクトップのアイコン名に影を付ける」をチェックしておきましょう。

パソコンの高速化に一番効果を期待できるのがメモリの増設です。「タスクマネージャ」で、コミットチャージの最大値が、物理メモリの合計を超えているようなら明らかにメモリ不足です。高速化の前に、メモリの増設を考えてください。

## 開発室から

自宅のXPパソコンで「ファイルと設定の転送ウィザード」を試しました。HDDの空き容量が少ないと途中で終了してしまいます。また、移行できないソフトもいくつかありましたが、ほとんどの設定が移行できました。念のため古いアカウントは今でも残してあります。